

目次

1. 『労働社会学研究』第24号 投稿募集
2. 『労働社会学研究』第23号 公開のお知らせ
3. 日本労働社会学会 第35期 第2回幹事会(2023.3.4) 議事録
4. 日本労働社会学会 第35期 第2回研究例会(2023.3.4) 報告

★2023年度年会費納入のお願い★

★新著紹介のお願い★

★住所・メールアドレス変更通知のお願い★

(4月は異動が多い時期です。所属や住所等が変わった場合は、事務局までお知らせ下さい。)

1. 『労働社会学研究』第24号 投稿募集

現在、『労働社会学研究』（通称：ジャーナル）第24号への投稿（論文、研究ノート）を募集しています。

会員の皆様方、実態調査に基づく論文・研究ノートをふるってお寄せください。

なお、投稿の際は「投稿規定」を十分にご確認のうえ、原稿を作成していただけますようお願いいたします。著しく形式が整っていない原稿は、差し戻すこともありますので、ご注意願います。

刊行までのスケジュールは、以下のとおりです。

- ・投稿希望書提出締切 2023年5月25日（木）（当日受信有効）
- ・原稿提出締切 2023年6月26日（月）（当日受信有効）
- ・発行予定（J-STAGE掲載） 2024年2月下旬（予定）

詳細は、学会HP→『労働社会学研究』ページ <http://www.jals.jp/journal/index.html> をご覧ください。

(連絡先)

日本労働社会学会 『労働社会学研究』編集委員会 委員長 小川 慎一

E-MAIL : ogawa-shinichi-nf@ynu.ac.jp

2. 『労働社会学研究』第23号 公開のお知らせ

『労働社会学研究』（通称：ジャーナル）第23号がJ-stageで公開されましたのでお知らせいたします。以下のURLからアクセスできます。

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jjals/-char/ja>

3. 日本労働社会学会 第35期第2回幹事会（2023.3.4）議事録

日時：2023年3月4日（土）13:00～15:30

場所：専修大学 7号館 763教室 + オンライン（Zoom）

参加：清山、勝俣、清水、宮地（以上対面）、跡部、飯田、上原、呉、岡村、小川、鈴木、近間、戸室、松永、三家本、山根、渡辺（以上オンライン）

I. 第35回大会（2023年10月27日～29日 青山学院大学）について

1. 開催校準備状況及び開催方法

開催日程について、10/27（金）工場見学、10/28（土）-29（日）大会で決定された。

開催方法について、開催校より、スキル・人員・設備等の観点からハイブリッド方式が困難なため、対面のみとの要望があった。ハイブリッド方式の際は幹事会が助力することを含め継続審議とし、7月幹事会で決定されることとなった。

開催教室について、参加人数を80人と想定し、①100人強のシンポジウム用大教室と、②100人弱の教室（①②で自由論題開催）、③30人弱（幹事会用）が確保されている旨報告があり承認された。なお、シンポジウムについて、例年通り非会員の参加を認めることが確認された。

II. 委員会報告・協議

1. 『年報』編集委員会（松永幹事）

34号投稿論文の投稿予告が締め切られ、論文5件の投稿予告があったことが報告された。締め切り超過の投稿予告につき、委員会預かりとして予告は不受理となるがジャーナルへの投稿を勧めることが承認された。また、6本の書評対象文献が提案され、承認された。

2. 『ジャーナル』編集委員会（小川幹事）

『ジャーナル』第24号のスケジュールの見通しについて報告されるとともに、投稿増に向けた第25号のスケジュール案が提案され、次回幹事会で再度検討されることとなった。また、評価割れの場合の査読者への対応については、掲載可となった時点で掲載不可を付

けた査読者に連絡することが確認された。第三の査読者を立てた場合の投稿者への連絡については継続審議となった。

3. 研究活動委員会（上原幹事）

研究例会については、本幹事会後に開催される旨報告された。

学会奨励賞については、選考委員会と研究活動委員会との連携をスムーズにするために、研究活動委員会から呉幹事が加わることが報告された。

次回の大会シンポジウムのテーマ選定のスケジュールおよび段取りについて検討され、候補となったテーマに沿って今後準備を進めていくことが確認された。

4. 関西部会（渡辺幹事）

5月28日（日）に研究会をオンラインで実施予定であり、今後報告者を募ることが報告された。

5. 社会学系コンソーシアム担当（跡部幹事）

1月28日（土）に開催された評議員会ならびにシンポジウムについて報告された。

6. 社会政策関連学会協議会担当（近間幹事）

住宅福祉に関連したシンポジウム（3/25）の案内ならびに日本学術会議の任命問題への対応状況について報告された。

7. 学会HP担当（鈴木幹事）

各種情報を掲載している旨報告された。

8. 会計担当（岡村幹事）

大会会計、直近の支出予定等について報告された。

9. 事務局（清山代表幹事・勝俣幹事）

日本学術会議委員の任命拒否問題に端を発した学術会議への介入を強めるその後の政府方針に対して、同会議が再考を求めた動きに、多くの学会の支持が広がっていることが資料に基づき報告された。日本学術会議法改悪に反対する緊急集会（3/12）が開催されることが紹介された。

日本学術会議の包摂的社会政策に関する多角的検討分科会が主催する、公開シンポジウム「社会的包摂ビジョン：孤独・孤立を越える」（8/5開催予定）について、木本喜美子会員（学術会議連携会員）による呼びかけにより、本学会も後援することになったことが報告された。

Ⅲ. 入退会者、会費減免措置の承認

入会1名、退会3名、会費減免申請2名について、承認された。

4. 日本労働社会学会 第35期 第2回研究例会（2023.3.4）報告

報告者：高木 朋代

報告題目：高年齢者の就業選択における「すりかえ合意」行動

—認知的不協和と利他性からの考察

高年齢者の雇用促進はあらゆる国々で重要課題となっ
ていが、70歳までの就業機会確保を努力義務とする日本において
でさえ、現実
は厳しく、全員が希望通りの就業を果たせているわけでは
ない。「誰が残り、誰が去るのか」を巡って生じるコンフリ
クトは職場環境の悪化を招きかねない。その意味で、雇用促進
のマネジメントは引退のマネジメントと表裏一体をなしている。

本報告では報告者の初期の研究（『高年齢者雇用のマネジメント』
〔2009年日本労働社会学会奨励賞受賞〕）で見出された、高年
齢層の就業選択における「すりかえ合意」行動（全員が希望通
りに就業できるわけではない中で、自分の真意をすりかえて、
引退や転職といった二次選択を主体的に受け入れる行動）につ
いて、この行動が発動される背景を社会心理学および行動経済
学の理論を援用して考察した。

なお、この行動の帰結として果たされるのは単なる労働市場
からの引退ではなく、適材適所への人材の再配置であり、「労働
力の均衡」である。本研究が展望するのは、正面切ったの闘
いや摩擦を回避するかたちで、一人一人が自分の居場所を見
つけて活躍できる社会の実現である。

これまでに行ってきた本人、上司、人事部等への多面的な
聞き取り調査、および質問票による就業意識に関する定量調
査の結果を踏まえて考察した結果、以下の点が見出された。

第1に、従来企業で就業状態を維持したいという「現状維持
バイアス」や、ここで頑張ってきたという思いから就業継続
に執着してしまう「サンクコストバイアス」は、人事施策
（カウンセリングや人事異動など）によって事前にその思考
が修正されている。これは、従前の人事管理が、組織内での
自分の正しい立ち位置を当該者たちに認識させる副次効果
をもつためと考えられる。また一方で、就業選択において
「保有効果」が生起される場合がある。ここで保有してお
きたいものは、経済的な所得獲得の機会（就業）ではなく、
友情、人間関係、尊厳などである。そのために二次選択を
主体的にとる行動が生じる。

第2に、「誰が残るべきか」という就業機会の分配は、一度
きりではなく繰り返しのやり

取り（長期の関係性）の中で行われるため、「裏切り（自己利得極大化）」よりも「協調」行動がとられやすい。また、自分の利得を狙って「最適基準」に基づき合理的判断下すというよりは、むしろ全体利益を優先し「満足基準」に基づき相手も慮って意思決定を下すという心理と思考が根底にあると考えられる。その意味で、「すりかえ合意」によって果たされる労働力均衡は「ナッシュ均衡」ではなく「パレート最適」が符合する。つまり、全体利益を考え、社会性、バランス感覚を持つ人々による「利他的・向社会的行動」が「すりかえ合意」となって現れていると考えられる。

第3に、上記だけでは収まらず、当該者たちには完全には晴れない気持ちがある。「本当は働きたい」という真意と「会社から望まれているわけではない」という現実の狭間（「認知的不協和」）の中で、このもやもやした気持ちの残余部分を、「ここで働き続けるよりも、もっといいことがある」と考え不協和を低減・解消させ、気持ちを切り替えることで、「すりかえ合意」を完成させている可能性がある。

今後は上記の見解を科学的に検証していきたいと考えている。

この度は報告の機会をくださいまして誠に有難うございました。研究活動委員会の先生方、またご参加くださりご質問やご意見をくださいました先生方に深く感謝申し上げます。意味のある成果に結びつけられるよう精進していきたいと思っております。今後ともご指導ご鞭撻を賜りたく、どうぞよろしくお願い申し上げます。

★2023 年度年会費納入のお願い★

学会費の納入は下記口座までお願いします。

【郵便振替口座】 口座番号： 00150-1-85076 加入者名： 日本労働社会学会

年会費 学生・院生会員：6,000 円 一般会員：10,000 円

会費減免制度については、下記 URL をご参照ください。

<http://www.jals.jp/discount/>

お問い合わせ先：ワールドミーティング

(株)ワールドミーティング（日本労働社会学会事務代行）

Tel: 03-3350-0363 Fax: 03-3341-1830

E-mail: jals@world-meeting.co.jp

.....

★新著紹介のお願い★

日本労働社会学会のBlog にて会員の新著を紹介しています。

新著（共著を含む）を出版された方は事務局もしくは Web 担当にご連絡ください。

E-mail: chikara.suzuki129@gmail.com

.....

★所属や住所、メールアドレス変更連絡のお願い★

所属や住所、メールアドレスを変更した場合には、必ず事務局にご連絡ください。

E-mail: tkatsumata@isc.senshu-u.ac.jp

.....

★日本労働社会学会事務局（第 35 期）★

〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田2-1-1 専修大学11号館11210研究室内

勝俣 達也 気付

E-mail: tkatsumata@isc.senshu-u.ac.jp 学会 HP: <http://www.jals.jp/>
